

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

記 入 日 2011 年 2 月 5 日

1. 概 要

実践団体名	西の地防災きずな会		
連絡先	0884-78-2214 (美波町由岐支所 地域振興室)		
プランタイトル	みなみ版 防災動画教材制作プロジェクト		
プランの対象者	3. 小学生(高学年) 4. 中学生 10. 地域住民 17. 防災関係者	対象とする 災害種別	1. 地震 2. 津波

【プランの目的・ここがポイント!】

昭和南海地震の発生から64年が経ち、その体験談が聞かれなくなってきた。今、その体験談を映像等に残しておかなければ、いずれは全く聞くことができなくなる時が必ず来る。そこで、我々は地元の大学と連携して、昭和南海地震の体験談を中心とした地域独自の防災動画教材（DVD2枚組）を制作し、地元の小中学校をはじめ自主防災組織、県立防災センター等に配布し、教訓という名のタスキを次世代につなぎ、次の南海地震に向けて防災力の向上を図る。

【プランの概要】

- ・昭和南海地震体験談の聞き取り調査を行う。
- ・対談形式で体験談の撮影を行う（徳島文理大学メディアデザイン学科と連携）。
- ・次の南海地震の被害想定等に関する動画を制作する（徳島大学環境防災研究センターと連携）。
- ・地元の児童・生徒、ならびに地域住民を対象に試写会を開催する。
- ・試写会の感想等を踏まえて効果を検証し、完成品を量産して地元の小中学校等に無料配布する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・体験談から災害に対する教訓を学ぶことができる。
- ・動画として残すことにより、体験談や教訓を後世に伝えていくことができる。
- ・地元の大学と連携することにより、より高度な成果品を制作することができる。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	・地域安全学会 体験談活用小委員会との調整	・発表原稿等の準備	・地域安全学会 体験談活用小委員会への参加
2010年 5月	・徳島文理大学との日程調整	・講習会会場の手配、撮影機材の準備等	・動画撮影に関する講習会
2010年 6月	・昭和南海地震体験者の調査 ・体験者等との日程調整	・ヒヤリングシートの準備 ・撮影機材等の準備	・昭和南海地震体験者のヒヤリング調査（1回目） ・第1回 撮影会
2010年 7月	・体験者との日程調整 ・昭和南海地震体験者の調査	・火災警報器の購入 ・ヒヤリングシートの準備	・撮影協力者に対するお礼（火災警報器の設置） ・昭和南海地震体験者のヒヤリング調査（2回目）
2010年 8月	・体験者との日程調整	・撮影機材、火災警報器の準備	・第2回 撮影会
2010年 9月			
2010年 10月	・昭和南海地震体験者の調査 ・体験者との日程調整	・ヒヤリングシートの準備 ・撮影機材、火災警報器の準備	・昭和南海地震体験者のヒヤリング調査（3回目） ・第3回 撮影会
2010年 11月	・地元小学校との協議、防災学習実施案の立案	・防災学習実施案の作成、試作動画の準備	・地元小学生に対する試写会
2010年 12月	・役員会にて日程調整	・試写会案内チラシの作成、配布	・地域住民に対する試写会
2011年 1月	・徳島大学環境防災研究センターとの日程調整	・ヒヤリングシート、撮影機材の準備	・徳島大学環境防災研究センターの取材
2011年 2月	配布計画の立案	DVD-R等の購入、DVDジャケット制作、印刷等	・防災動画教材(DVD2枚組)の完成、量産、配布

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	地域安全学会 体験談活用小委員会への参加
実施月日（曜日）	4月2日（金）
実施場所	美波町由岐公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式	1 2. 研究
活動目的	1 0. 災害体験談のまとめ方や活用方法等について学ぶ。
達成目標	災害体験のまとめ方や活用方法を知り、「みなみ版 防災動画教材」制作の際の参考とする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. 地域安全学会 体験談活用小委員会の中で実践されている体験談の聞き取り調査や、活用方法の事例を聞く。 2. 「みなみ版 防災動画教材」制作の概要を発表し、委員の方々から助言を頂く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	1. 人材 専門家（地域安全学会 体験談活用小委員会会員12名） 西の地防災きずな会役員5名 2. 道具 スクリーン、プロジェクター等
参加人数	17名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 体験談活用小委員会の方々から、聞き取り方法やまとめ方等に関して、さまざまなアドバイスを頂くことができた。 【課題】
成果物	なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム②】

タイトル	動画撮影に関する講習会
実施月日（曜日）	5月15日（土）
実施場所	西の地公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局 担当者・講師等の区分：講師 氏 名：山城 新吾 所属・役職等：徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式	12. 研究
活動目的	10. デジタル映像の制作方法を習得する。
達成目標	西の地防災きずな会のメンバーがデジタル映像の制作方法を学び、「みなみ版 防災動画教材」制作の際の参考とする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. 徳島文理大学メディアデザイン学科の山城新吾先生に、デジタル映像の作り方について講義して頂く。 2. 実際にデジタル映像をつくり、制作方法を習得する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	1. 人材 専門家（徳島文理大学メディアデザイン学科 山城 新吾 氏） 2. 道具、材料等 スクリーン、プロジェクター、ビデオカメラ、三脚、暗幕等
参加人数	8名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 デジタル映像の制作方法について知ることができた。 【課題】 想像以上にスキルフルで、また、専用機材が高額であることを知り、我々だけで撮影できるか、不安が残った。
成果物	なし

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	昭和南海地震体験者のヒヤリング調査
実施月日（曜日）	6月1日（火）、6月10日（木）、6月14日（月）、 7月10日（土）、10月8日（金）、10月19日（火）
実施場所	昭和南海地震体験者の自宅
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：酒井 勝利 所属・役職等：西の地防災きずな会・会長 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	12時間（体験者1人あたり約1～2時間）
プログラムのカテゴリ、形式	12. 研究
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	昭和南海地震の発生前から復興まで、幅広く聞き、次の南海地震に対する教訓を引き出す。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. ヒヤリングシート及び地図を用意し、体験者にインタビューを行う。なお、地図には被災した場所や避難した場所、避難経路等を具体的に記す。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1. 人材 昭和南海地震体験者 8名 2. 道具、材料等 ヒヤリングシート、地図
参加人数	延べ26名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】津波に流された人や、津波からの避難を呼びかけた人など、さまざまな体験談を聞くことができた。 【課題】もっと多くの体験者から聞き取り調査を行う予定だったが、時間が足りなかった。
成果物	撮影時の基礎資料、避難経路等を示した地図

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	昭和南海地震体験談の撮影
実施月日（曜日）	6月28日（月）、8月28日（土）、10月23日（土）
実施場所	美波町西の地
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：酒井 勝利 所属・役職等：西の地防災きずな会・会長</p> <p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局</p> <p>担当者・講師等の区分：講師 氏 名：山城 新吾はじめ学生4名 所属・役職等：徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	約18時間（1日あたり約6時間）
プログラムのカテゴリ、形式	17. 災害体験談の撮影
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	昭和南海地震体験者のヒヤリング調査結果をもとに、インタビュー形式で体験談を撮影する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>1. 昭和南海地震体験者のヒヤリング調査結果をもとに、インタビュー形式で体験談を撮影する。</p> <p>なお撮影では、当時、避難した経路や避難場所等を実際に巡りながら撮影することで、当時の状況等を分かりやすく表現する。</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>1. 人材 昭和南海地震体験者 7名 専門家（徳島文理大学メディアデザイン学科 山城先生をはじめ学生4名）</p> <p>2. 道具、材料 ビデオカメラ、三脚、暗幕、暗幕用の物干し台、レフ板、ワイヤレスマイク、ヒヤリング調査結果、外付けハードディスク</p>
参加人数	延べ28名
経費の総額・内訳概要	<p>総額 54,440 円</p> <p>謝金 40,000 円（学生に対する協力費として）</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	消耗品費 14,440 円 (物干し台 6,060 円、外付けハードディスク)
成果と課題	<p>【成果】ヒヤリング調査を行った8名のうち、7名の撮影を終えることができた (残りの1名は町外在住のため、日程調整がつかなかった)。</p> <p>【課題】撮影は想像以上に技術を必要としたため、当初の計画以上に徳島文理大学に頼らざるを得なかった。</p>
成果物	動画7名分

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	撮影協力者に対するお礼
実施月日（曜日）	7月9日（金）、8月28日（土）
実施場所	昭和南海地震体験談の撮影にご協力頂いた家
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：酒井 勝利 所属・役職等：西の地防災きずな会・会長 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間20分（1箇所あたり約15分）
プログラムのカテゴリ、形式	17. 昭和南海地震体験談の撮影にご協力頂いた方に対し、お礼として火災警報器を無料設置する。
活動目的	3. 災害に強い地域をつくる。
達成目標	火災警報器を取り付けることで、地域の防災力の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. 「防災に対するお礼は防災でしょう」ということになり、昭和南海地震体験談の撮影にご協力頂いた方に対し、お礼として火災警報器を無料設置する。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1. 道具 火災警報器、インパクトドライバ、脚立
参加人数	延べ6名
経費の総額・内訳概要	総額 14,500円 消耗品費 14,500円（火災警報器5個）
成果と課題	【成果】撮影した7名のうち、5名の家に火災警報器を設置（残る2名は既に設置済み）することで大変喜んで頂いた。この活動を地域全体に広めて欲しいという要望があり、8～9月は地域全体で火災警報器の設置ボランティアを実施した（ただし、この時の火災警報器は共同購入）。 【課題】火災警報器の設置ボランティアに手を取られてしまい、本来の撮影が少し遅れる結果となった。
成果物	なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑥】

タイトル	地元小学生に対する試写会
実施月日（曜日）	11月1日（月）、11月4日（木）
実施場所	由岐小学校、牟岐小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×45分を2校で実施
プログラムのカテゴリ、形式	4. 総合的な学習の時間
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり 8. 防災意識を高める
達成目標	試作の防災動画教材を児童に見せることで効果を検証するとともに、児童の防災意識の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. 南海地震のメカニズム等について説明する。 2. 昭和南海地震体験談（試作の防災動画教材）を見せる。 3. 次の南海地震の被害想定等について説明する。 4. 児童の感想を聞く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	1. 道具 スクリーン、プロジェクター、パソコン、試作の防災動画教材
参加人数	44名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 試作の防災動画教材を小学生に見せたところ、大変反応が良く、地震・津波の恐ろしさや備えの重要性がよく伝わっていることが分かった。 【課題】
成果物	なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑦】

タイトル	地域住民に対する試写会
実施月日（曜日）	12月19日（日）
実施場所	美波町地域交流支援センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：酒井 勝利 所属・役職等：西の地防災きずな会・会長 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式	2. 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり 8. 防災意識を高める
達成目標	試作の防災動画教材を地域住民に見せることで効果を検証するとともに、地域住民の防災意識の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. 地域住民に試写会開催のチラシを配布し、参加者を募る。 2. 試作の防災動画教材を見せる。 3. 次の南海地震の被害想定等についても補足説明する。 4. 地域住民の感想を聞く。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1. 道具 スクリーン、プロジェクター、パソコン、スピーカー、試作の防災動画教材、チラシ
参加人数	約40名
経費の総額・内訳概要	総額 2,520円 印刷製本費 2,520円（チラシの用紙代）
成果と課題	【成果】 児童の時と同様、大変反応が良く、こちらの伝えたい内容がよく伝わっていたと感じた。特に、自分たちの住む地域に関する過去の被災状況を知ることは、大変臨場感があり、防災対策の参考になったと思われる。 【課題】
成果物	なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑧】

タイトル	徳島大学環境防災研究センターへの取材
実施月日（曜日）	2月7日（月）
実施場所	徳島大学環境防災研究センター
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：講師 氏 名：中野 晋 所属・役職等：徳島大学環境防災研究センター・センター長</p> <p>担当者・講師等の区分：講師 氏 名：山城 新吾ほか学生4名 所属・役職等：徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科</p> <p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式	1 7. 次の南海地震の被害想定等に関するインタビュー
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	次の南海地震の規模や被害想定等について正しく理解できる内容の動画を作成する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>1. 今回の防災動画教材は昭和南海地震体験談が主題となっているが、この教材を見た人が昭和南海地震規模で備えるのは不十分であるということを理解させるため、次の南海地震の被害想定等について、専門家にインタビューする。</p> <p>（インタビュー内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の南海地震の規模 ・ 発生確率 ・ 被害想定（美波町に特化したものも含む） ・ 住民が行うべき対策など
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<p>1. 人材 防災の専門家（徳島大学環境防災研究センター長 中野晋氏） メディアの専門家（徳島文理大学 山城新吾氏） 撮影協力者（徳島文理大学メディアデザイン学科の学生4名）</p> <p>2. 道具 ビデオカメラ、三脚、ワイヤレスマイク、スポットライト、レフ</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	板
参加人数	6名
経費の総額・内訳概要	総額 10,000 円 謝金 10,000 円（徳島大学 取材協力費として）
成果と課題	【成果】 次の南海地震の被害想定等に関する内容を分かりやすく動画に収めることができた。 【課題】
成果物	次の南海地震の被害想定等に関する動画

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑨】

タイトル	防災動画教材の完成、量産、配布
実施月日（曜日）	1月21日（月）～2月15日（火）
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：酒井 勝利 所属・役職等：西の地防災きずな会・会長 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：浜 大吾郎 所属・役職等：西の地防災きずな会・事務局
所要時間または「コマ数×単位時間」	約100時間 (ジャケット作成：約30時間、DVD作成：約70時間)
プログラムのカテゴリ、形式	17. 防災動画教材を量産し、地元の小中学校をはじめ、自主防災組織、徳島県立防災センター等に配布する。
活動目的	2. 防災に役立つ資料・材料づくり 8. 防災意識を高める
達成目標	完成した防災動画教材を関係団体に配布し活用して頂くことで、防災意識の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1. DVDジャケット作成 ・Adobe イラストレーターでDVDジャケットを作成し、印刷業者に印刷を依頼する。 2. DVD作成 ・ライティングソフトでDVDを作成し、レーベルを印刷する。 3. 2枚1組をツールケースに入れて完成。 4. 完成した防災動画教材を小中学校をはじめ、自主防災組織、徳島県立防災センター等に配布する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	道具 ・パソコン、プリンター、DVD、DVDツールケース
参加人数	15名
経費の総額・内訳概要	総額 23,000円 印刷製本費 5,000円 消耗品費 18,000円

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

成果と課題	<p>【成果】 徳島文理大学ならびに徳島大学をはじめ、地元の昭和南海地震体験者の多大なるご協力を得て、ようやく防災動画教材を完成することができた。</p> <p>【課題】</p>
成果物	みなみ版 防災動画教材 100 セット

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>西の地防災きずな会の各役員が普段の仕事を持つ中で、今回のプランを立案し実施したが、なかなか全員の足並みが揃わず、会長と事務局に負担が集中してしまった。しかし、徳島文理大学をはじめ他団体の協力によってプランの立案・調整を行うことができた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>撮影機材の準備について、当初は自前の機材で十分対応できると思っていたが、良い動画をつくらうとすると、どうしても高額で高性能な機材が必要である、ということに気づいた。そのため、自己資金等で対応（今回の予算では備品購入費は対象外であるため）したり、また暗幕を立てる三脚については、物干し台で代用するなどした。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>計画当初、10人以上の被災体験者の撮影を考えていたが、ヒヤリング調査8名、うち撮影が7名にとどまってしまった。原因としては、組織内の負担の偏りをはじめ、撮影技術の煩雑さ等が挙げられるが、そもそも計画自体が甘かったことは反省すべきである。</p> <p>しかし前述のように、徳島文理大学をはじめ関係団体のご協力により、形にできたことは非常に感謝している。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> 徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科 徳島大学環境防災研究センター 由岐小学校及び牟岐小学校 	<ul style="list-style-type: none"> 動画撮影 次の南海地震の被害想定に関するインタビュー 試作動画の試写会
保護者・ PTAの組織		
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> 西の地町内会 	<ul style="list-style-type: none"> 試作動画の試写会
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

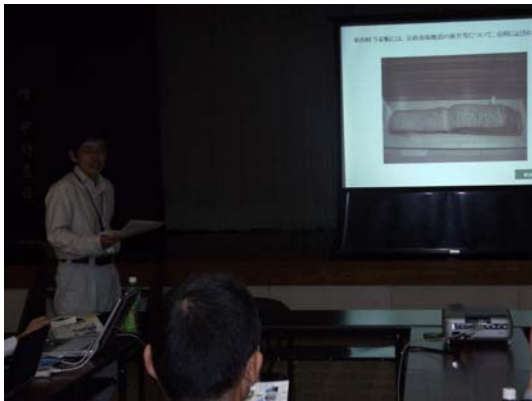
防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学ならびに徳島大学と連携して、地域独自の防災動画教材を制作することができた。 ・この防災動画教材の試写会では参加者に対し、地震・津波の恐ろしさや防災対策の重要性を再認識させることができた。 ・体験談の取材協力者に対し、火災警報器の無料設置を行うことで、さらに地域の防災力向上に寄与することができた。 <p>昭和南海地震体験談の聞き取り調査は、過去に大学等をはじめさまざまな機関で実施されているが、改めて実施すると、まだまだ知られていない事実がたくさんあり、この活動の重要性を再認識することができた。過去の体験者の教訓を過去のものとして、次世代に残し、つないでいくことは防災対策の第一歩であると言える。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>当初、我々だけで撮影が実施できるかどうか不安であったが、徳島文理大学の協力によって進めることができた。この活動がテレビで取り上げられ、町内外の昭和南海地震の体験者から手紙や電話等を頂き、改めてこの活動の重要性を知った。</p> <p>しかし、撮影は想像していたよりも技術を必要とし、当初の計画以上に徳島文理大学に頼らざるを得なかった。そのため、撮影できた体験談が7人にとどまった。今後は我々だけでも撮影から編集までを行えるよう、スキルアップする必要がある。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今年度は7人の撮影しかできなかったが、地域にはまだまだ体験者が存在しており、その教訓を残しておく必要がある。そのため、来年度も継続して活動していく予定である。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①



地域安全学会体験談活用小委員会での発表



動画撮影に関する講習会



昭和南海地震体験談ヒヤリング調査



昭和南海地震体験談の撮影



協力者に対するお礼（火災警報器の設置）



地域住民に対する試写会